

瀬戸地蔵（今田町）

奈良時代の有名な僧行基〈ぎょうき〉が清水寺〈きよみずでら〉にいたころのことでありました。

ある日、都の方へ行こうとして、清水寺のふもと今田〈こんだ〉町木津〈こつ〉へおりて来て、芦原まで来た時でした。

数人の村人たちが黒石川の川岸に立って、お経〈きょう〉を唱〈とな〉えていました。

そこは、氷上郡の方から大阪の方へ行くのに、氷上郡谷川から今田町黒石に出て、本庄・市原・木津へと、旅人が必ず通る近道であり、高い絶壁〈ぜっぺき〉が川岸にせまり、下は深い淵〈ふち〉になっているところでした。

行基は何ごとかと近づき、村人にたずねました。

村人たちは絶壁の斜面を通る旅人たちが、たびたびふみはずして、落ちて死ぬことや、川上から死んだ赤んぼうが菰〈こも〉に包〈つつ〉まれ、投げ捨てられたものが、この深い淵へ流れついたことなどを話し、先日亡〈な〉くなった人のために弔〈とむら〉っていると答えました。

行基は危険な所だ、どうかこんな悲しいことのないようにと、その後、絶壁の岩面にお地蔵さんを彫〈ほ〉りこんで、交通安全と、ここで死んだ人や子どものための供養〈くよう〉にと、お祭りしたのだということです。

今も瀬戸の地蔵として、お祭りが続けられています。

